

地上支援業務の省力化・自動化

- 東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年までにフェーズⅡの達成を目指してイノベーションを推進。
- 官民連携して、実証実験を実施。
- 「航空イノベーション推進官民連絡会」において、進捗状況をフォローアップ。



省力化・自動化のイメージ (トーイングの場合)

現状

トーイングトラクタによるプッシュバック

(例) 必要作業員：4～5名



- ・トーイングトラクタ運転手、翼端監視員、トバー取り外し要員、整備士等が対応
- ・トバーの取り付けが重労働

省力化

リモコン操作によるプッシュバック

1～2名



- ・トバーの取り付けが不要
- ・少人数で対応可

自動化

無人トラクタによるプッシュバック



出典) TAXIBOT公式WEBサイト

- ・トラクタ運転手を削減
- ・トバーの取り付けが不要